

新文化ホール施設整備にかかる
要求水準書（案）

平成29年8月

目次

(1) 基本コンセプト	1
(2) 基本方針	1
(3) 大ホール	2
ア) 基本方針	2
イ) 空間計画	3
ウ) 舞台機構	4
エ) 舞台照明	7
オ) 舞台音響	8
カ) 客席関係 (各室計画)	9
キ) 舞台関係 (各室計画)	10
ク) 技術関係 (各室計画)	13
ケ) 楽屋関係 (各室計画)	14
(4) 小ホール	17
ア) 基本方針	17
イ) 空間計画	17
ウ) 舞台機構	19
エ) 舞台照明	20
オ) 舞台音響	21
カ) 客席関係 (各室計画)	22
キ) 舞台関係 (各室計画)	23
ク) 技術関係 (各室計画)	24
ケ) 楽屋関係 (各室計画)	26
(5) その他諸室	27
ア) リハーサルスタジオ	27
イ) その他諸室	27
(6) 設備関連	30
ア) 基本方針	30
イ) 要求水準	30

新文化ホール運営管理事業予定者募集要項（以下、「募集要項」という。）及び以下に示す要求水準とともに、【別紙1】各室リスト、【別紙2】舞台特殊設備参考仕様、【別紙3】舞台備品リスト、【別紙4】一般備品リスト等の内容を踏まえた施設整備計画とする。

ただし、募集要項と要求水準書に記載されている内容が矛盾する場合は、要求水準書が優先される。

（1）基本コンセプト

文化ホールについては、「箕面市新文化ホール整備審議会」において、全7回の活発な検討がなされてきた。同審議会において取りまとめられた、以下の基本コンセプト、基本方針を実現することにより、市民の文化活動の活性化をめざすものである。

箕面。自然豊かな 心躍る 関西有数の文化芸能都市

アクセスの良さで日本全国から人々が集い、未来へとつながる

人に優しい劇場日本一を目指して

このホールから芸術は創られる

（2）基本方針

文化ホールは、芸術鑑賞の機会を確保する役割を担う1,400席以上の大ホールと、市民が文化・生涯学習活動の参加の場として活用する300席以上の小ホール、必要な諸室等をもって構成する。文化ホールは、市の芸術文化活動を支える総合的な中核拠点施設として、以下の事項を踏まえた、質の高い芸術文化の創造と振興の場とする。

- 多世代にわたり、多数の市民の芸術鑑賞機会を確保するため、集客力の高い様々なコンテンツを提供できる空間とする。
- 将来にわたり、市民の文化芸術の振興を図るため、青少年が文化芸術に親しむ機会、あるいは若手アーティストを育成する機会等を創出できる空間とする。
- 小ホールについては、市民の生涯学習の参加の場として、できるだけ多くの市民に、積極的に活用される空間とする。
- 利用者及び観客が快適に、そして安心・安全に利用及び鑑賞でき、何度も繰り返し活用したくなるホールとする。
- 舞台機構をはじめとする特殊設備の操作環境や劇場等演出空間の安全性と利便性を重視し、舞台を支えるスタッフにとって安全で使いやすいホールとする。

※注記

【別紙1】各室リスト、【別紙2】舞台特殊設備参考仕様、【別紙3】舞台備品リスト、【別紙4】一般備品リスト等に関しては、本審議会の意見を踏まえ、別途、運営管理予定事業者と協議の上、箕面市において調整を行うため、今回の要求水準書（案）には含まない。

(3) 大ホール

ア) 基本方針

- 音楽（生音系や電気音響系）、演劇、ダンス、伝統芸能など多彩な舞台芸術から講演、映像の催事まで上演に適した多目的ホールとする。

音楽								演劇	ダンス	伝統芸能				講演	映像		
生音系				電気音響系													
オーケストラ・吹奏楽	室内楽	ピアノ	合唱・声楽	オペラ	ポップス・ロック	ジャズ	演歌	演劇	ミュージカル	バレエ	ダンス	歌舞伎・能・狂言	邦楽・民謡	邦舞	落語	講演会・式典	映画・ビデオ
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○

◎：上演に適した用途

○：上演が可能な用途

- 日本古来の伝統芸能から最新のパフォーマンスやコンサートなどの多岐にわたる演目に対応できる音響・照明・舞台機構設備を備える。
- 最新のシステム、機材を積極的に取り入れる他、改修等も見据えた計画とする。
- 催事の形態に合わせて、最小限の人数でも操作が行える設備とする。
- 技術員や管理員を効率的に配置できる操作確認システムを構成する。
- 舞台、客席に限らず音響・照明機材等の設置場所は、作業に支障がないように十分なスペースと照度を確保し、安全に作業が行える環境を整える。
- 各室で施錠できるものとする。また、事務室等で各諸室の一斉施錠などを行える入退室システムを構築する。
- 舞台の視認性が良く上質で快適な座席空間を実現させた鑑賞空間とする。

イ) 空間計画

• 要求水準

項目	要求水準
空間計画	
客席計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2層構造の客席数 1,400 席以上とする(サイドバルコニー席は不可)。 ・ 1階席のみを使った中ホール的な利用も想定し、1階席座席数 900 席程度、2階席座席数 500 席程度とし、階段またはスロープ床固定席とする。 ・ 客席 100 席程度のスペースにオーケストラピットを構成できる構造とする。 ・ 舞台の上手下手それぞれに袖花道を構成できる構造とする。 ・ 全ての客席から舞台が十分に見渡せるものとする。 ・ 舞台に正対する座席は、視認性を踏まえ千鳥配置とする。 ・ 客席間隔は前後間隔 950mm 以上、幅 530mm 以上のゆとりのある座席とする。 ・ 各列の横並びは、観客の出入りしやすさや迅速な避難等を考慮し、適切な席数とする。 ・ 通路や階段は、歩きやすさに配慮するとともに、避難時のスムーズな移動に十分留意した計画とする。 ・ 2階席の階段や通路等における転倒や落下防止に留意するとともに、客席からの鑑賞環境に十分配慮した計画とする。 ・ 席番銘板は、座と背の 2 か所に設け、通路側床に列番号銘板を取り付ける。 ・ 車椅子席は大阪府福祉のまちづくり条例で規定する席数以上を確保し、位置は 1 か所に限定せず配置する。 ・ 車椅子席は、必要に応じて取り外し可能な座席を設置できるものとする。 ・ PA 席は、客席内の最適な場所に必要に応じて座席を取り外して設置できるものとする。さらに、客席後方には、持込映像装置、TV カメラを設置して利用出来るスペースを適宜設ける。 ・ 客席内の 1 階席最後列、PA 席から舞台まで、持込機材等の配線作業が容易にでき、配線が露出しない形状の配線スペースを確保する。 ・ 客席内に持込配線されるケーブルが安全かつ、見苦しくならないような策を講じること。

項目		要求水準
		<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の着席にも疲れにくく座り心地のよい上質な座席仕様とする。
	舞台計画	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセニウム開口高さは 8.7 メートル程度とし、音響反射板使用時に最大 12 メートル程度とする。 ・主舞台間口は 11 間程度、奥行は 10 間程度とする。 ・袖舞台間口は上手下手それぞれ 3 間以上、奥行は 10 間程度とする。 ・多彩な催事に対応するプロセニウム形式とし、音響反射板使用時に上下の開口調整ができる構造とする。 ・床仕上げは桧集成材とする。 ・舞台への出入口部分には前室を設ける。 ・舞台裏で上手と下手への動線を確保する。
	音響計画	<ul style="list-style-type: none"> ・アコースティックなコンサートやオペラ、バレエなど可動音響反射板を設置した生音系音楽利用、可動音響反射板を使用しないロック、ポップスコンサートや演劇、講演会、式典などの舞台利用(講演会、式典等含む)にそれぞれに適した残響時間とする。 ・残響時間は、満席時 1.8 秒とする(残響可変装置などの装置は想定していない)。 ・静けさの基準(室内騒音低減目標値)として、客席内において平均 NC-20 を目標とする。 ・反射面・吸音面を適切に向け、全ての席で直接音や初期反射音が多く得られ、明瞭度が高く、質の高い音を確保する。 ・客席の壁や天井に設備した幕類など簡易なもので吸音し、残響や音響を調整できるようにする。なお、壁面や天井の可変(昇降)等による残響可変機構等の設置は想定していない。 ・遮音性能や耐振動性能に十分配慮し、他の施設との同時稼働に影響のないものにする。

ウ) 舞台機構

・ 要求水準

項目		要求水準
舞台機構		
	プロセニウム	<ul style="list-style-type: none"> ・上下開口調整のみができる可変式プロセニウムとする(左右開口調整は想定していない)。

項目	要求水準
吊物機構設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主舞台の大きさ間口 11 間程度、奥行 10 間程度に適したバトン本数を設置するものとし、W バトン形式とする（道具バトン類：21 本、照明バトン：10 本、照明サイドバトン：3 対、諸幕類バトン：16 本、東西幕バトン：2 対以上）。 ・ 道具バトン類、照明バトン、諸幕用バトン類で構成し、主に舞台上部と客席前方上部に設置する。 ・ 吊物配置計画は、演出の自由度を第一に考えた計画とし、道具バトン、諸幕用バトン類は必要に応じて吊変えができるものとする。 ・ 道具バトン、諸幕用バトン類の昇降速度は、最低速度が毎分 0m、最高速度が毎分 90m 以上の可変速とし、最大積載荷重 400kg 程度（バトンの自重を含まない）とする。 ・ 照明バトンは一定速とし、最大積載荷重を 750kg 程度（バトンの自重を含まない）とする。 ・ 道具バトン類、照明バトン、諸幕用バトン類に関しては、メモリ機能（5 か所）や、荷重検出機能を設ける。
音響反射板	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全を第一に考え、少人数で安全かつ迅速に設置・収納が可能な走行式音響反射板とする。 ・ 音響反射板は、反響に最適な材質・質量・反射面角度などを検討した音響設計を提案する。また、音が効率よく客席に届くように正面・側面・天井反射板の隙間や客席天井面との隙間を極力少なくするとともに、板厚の薄い部分も少なくする。 ・ 舞台上の出演者が、天井や側面からの初期反射音を明瞭な状態で聞き取れるようにする。 ・ 音響反射板の走行用レールの蓋は、がたつきやゆがみを生じる可能性が極力少なく、かつ、その着脱（開閉）が容易なものを採用する。 ・ 音響反射板の出入り扉は、4 か所確保する。なお、フルコンサートピアノがスムーズに出し入れできる大きさとする。 ・ 音響反射板の開口は主舞台間口に適したものとし、コンサート時の舞台部と客席部の音のつながりを良くするため、走行式音響反射板の天井高を十分確保する。 ・ 音響反射板の内側にスクリーン、看板兼用の昇降バトン（電動又は手動）を設置する。 ・ 走行式音響反射板は、多彩な演出に対応できるように、反射板の隙間を調整できる設定を設けるな

項目	要求水準
床機構設備	<p>ど工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラピットは、指揮者が立てる程度（客席床より 900mm 程度高低差を設ける）の深さとし、床機構（電動又は手動）は提案による。提案内容には、設置・収納に要する時間を記載すること。 ・オーケストラピットへの転換は、少人数で可能な限り安全かつ迅速に設置・収納ができるシステムとする。 ・オーケストラピット規模に応じて、ピット内に必要な数のコンセントを設けること。 ・コンセント電源容量は提案によるが、計画に応じて市と協議を行うこと。 ・袖花道は、舞台からの専用の出入口となる扉を客席の上手下手両方の壁面に設ける。 ・袖花道は、必要に応じて車椅子で客席から舞台にあがれるように工夫すること。なお、必要時以外に利用されないよう、進入禁止柵などの設置を配慮すること。
機械・操作・制御部	<ul style="list-style-type: none"> ・荷重検知や 0 速保持等を可能とする高性能の電動巻取機・制御機器を導入する。 ・同期運転としてバトン数 10 台の稼働ができるよう電源容量を確保する。 ・近年の傾向に則した PC を利用した操作卓・制御システムを導入する。 ・インターロックやバックアップ機能等の安全性を充実する。 ・安全対策として非常停止機能を有したものとする。
諸幕類	<ul style="list-style-type: none"> ・主舞台の大きさ間口 11 間程度、奥行 10 間程度に適した諸幕類を設置する（緞帳、暗転幕、紗幕（英国紗 グレー/黒）、一文字幕（6 枚）、袖幕（4 対）、引割幕（2 対）、スクリーン、東西幕（上下各 2 対）、引割大黒幕、 Horizont 幕以上）。

エ) 舞台照明

• 要求水準

項目	要求水準
舞台照明	
照明システム	<ul style="list-style-type: none"> ・一般照明、デジタル照明に対応可能なものとする。 ・各催事の持込機材に対応できるように、回路の増設が可能な電源・移動型調光器等を確保したシステムとする。
調光設備	<ul style="list-style-type: none"> ・最小限の人数でも催事に対応できるように、メイン調光操作卓以外にも舞台の袖で、ある程度の操作ができるサブ調光操作卓を設置する。 ・持込機材の対応を想定し、持込卓用コネクタを設置する。また、客席内にもコネクタを設ける。 ・制御信号として DMX 回線に加えて、LAN 回線も設置する。
負荷設備	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台フロアコンセント、舞台サスペンションライト、ボーダーライト、ホリゾンライト、客席サスペンションライト、フロントサイドライト、シーリングライト、バルコニーライト、フォロースポットライト等で構成する。 ・舞台フロアコンセントは、想定する催事に対して適切な位置と数を設置する。 ・舞台上のサスペンションライトは 5 列以上設置する。 ・プロセニアムの上手・下手の側壁にトーマンタルライトを設置する。 ・フォロースポットは 4 台以上設置する。
移動器具	<ul style="list-style-type: none"> ・スポットライト等の照明器具は、基本的な器具を本工事としその他は備品とする。 ・従来型のエフェクト機材に加えてエルプソイダルスポットを使用した効果器具も備える。
時計表示	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙・休憩・開演・時計表示板を設ける。
電源部	<ul style="list-style-type: none"> ・調光主幹盤、分電盤、調光器盤で構成する。 ・想定する催事の規模に相応した電源容量、調光回路数を確保する。 ・調光回路以外にも、ムービングライトや LED 機材に対応するための直電源（100V、200V）を設ける。 ・仮設電源盤を舞台上に設置して大容量の給電に対応する。

オ) 舞台音響

• 要求水準

項目	要求水準
舞台音響	
音響システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音響システムは基本的な拡声ができる構成とし、複雑な演出に関しては持込対応とする。 ・ 生の音の響きを重要視しつつ、PA を使用した催しに対応できる音響設計とする。 ・ 光システム等を含む、ネットワークオーディオによるフルデジタル舞台音響システムとする。 ・ 音響調整室に YAMAHA CL シリーズ若しくは Digico SD シリーズ程度の水準のデジタルネットワークを使った音響調整卓システムを配置する。 ・ 舞台袖操作盤近くに YAMAHA QL1 程度の性能の音響調整卓を配置し舞台袖でのある程度の操作を可能とする。 ・ 出力マトリクスと出力メーター、アンプ室の入切電源スイッチは、舞台袖で操作確認が可能とする。 ・ 持込機材に対する外部干渉のない十分な音響電源を用意しておく。 ・ 客席内で PA 席が想定される場所には、観客の足元を邪魔しない位置に音響電源と音響コネクタ盤を設ける。
拡声設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロセニアムスピーカーLCR、サイドコラムスピーカー、インフィルスピーカー、ステージフロントスピーカー、サイドバルコニー補助スピーカー、アンダーバルコニースピーカー、2 階客席後部補助スピーカー、舞台後方サイドフィル、客席シーリングスピーカー、移動型スピーカー（サブウーファー含）、固定はね返しスピーカー、移動型サイドモニタースピーカー、中型移動用ステージモニタースピーカー、小型移動用ステージモニタースピーカーなどで構成する。
舞台映像設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10,000～12,000 ルーメン程度のプロジェクターと周辺機器一式及び電源を設置する。 ・ 映像投影室や 2 階最前部それぞれの位置に設置できる計画とする。
舞台連絡設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターカムシステムを導入する。

項目	要求水準
ITV 設備	<ul style="list-style-type: none"> ・エアモニターマイク、ITV カメラを用い、舞台、ホワイエ等、必要エリアの状況を把握する。 ・舞台進行が分かるように舞台袖、調光操作室、音響調整室、楽屋、楽屋ロビー、ホワイエ等適切な位置に ITV モニターやコンセントを設ける。 ・舞台上と楽屋等の双方向から関係者に向けて、一斉アナウンスできる機能を設ける。 ・一般設備で設ける施設運営用 ITV と役割分担し、舞台用 ITV は必要十分な数を設ける。 ・ITV 設備は、暗視・録画機能があるものとする。
録画・録音設備	<ul style="list-style-type: none"> ・客席正面から舞台映像を録画し、メディア作成できる機能があるものとする。 ・舞台上の音声を録音できるよう、適切な場所に三点吊りマイク、エアモニターマイク、吊りオーディエンスマイクを設ける。

カ) 客席関係 (各室計画)

・ 要求水準

項目	要求水準
客席関係 (各室計画)	
ホワイエ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・客席のある階にそれぞれ設け、客席数に見合った広さを確保する。 ・ホワイエ内で物品販売にも利用できるスペースを確保する。 ・ホワイエ内に仮設のクロークを設置できる計画とする。 ・ホワイエ内の適所に、客用のコインロッカーを設置する。ロッカーは様々なサイズを揃えた計画とする。 ・バリアフリーに配慮し、客室上階への動線はエレベーターを必須とする。 ・エレベーターは、2階ホワイエまでスムーズに移動できるように、階段等の動線とできるだけ隣接して設置する。 ・エスカレーターについては提案による。
客用トイレ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・客席のある階にそれぞれ設け、客席数に見合った規模を確保する。 ・多目的トイレを整備する。 ・トイレの数はゆとりを持たせ、休憩時間の混雑を可能な限り緩和できる計画とする(男女の利用状況により、男子トイレを女子トイレに変更できる

項目	要求水準
	<p>ような工夫を検討すること)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子トイレはウォークスルー方式を採用するなど、混雑解消に配慮する。 ・女子トイレの洗面台とパウダースペースは隣接配置するなど、スムーズな移動に留意すること。 ・ブース扉の開閉等により、空ブースを利用者に対して分かりやすく表示する。
主催者控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスロビーに面した位置に計画する。 ・主催者の作業スペースとして利用する。 ・必要に応じて4人用応接セットを設置し、来賓控室など多様な利用を可能とする。
備品倉庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイエ内で使用する備品を収納する。 ・ホワイエに面した位置とし、室内との間に段差を設けないこと。
マルチルーム (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・親子室や同時通訳利用などの多目的な利用を可能とする。 ・親子室利用時は、計10席以上の収容人数に対応した空間とする。 ・同時通訳利用時は、ホール内部の音声や映像を確認できる設備を備え、3名で作業できる可動式ブースを3か所設置できる空間とする。 ・複数室で確保する計画でも可とする。
スタッフ控室 (約20㎡)	<ul style="list-style-type: none"> ・場内運営スタッフなどの控室として計画し、作業や休憩としての利用を想定する。
当日券ボックス (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスロビーに面した位置に計画し、チケット購入者とスタッフがガラス越しに対応できるブースを2か所設ける。

キ) 舞台関係 (各室計画)

- ・ 要求水準

項目	要求水準
舞台関係 (各室計画)	
舞台備品庫 (約130㎡)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台周りの消耗品、工具類、小物類等や取り外した客席を収納する。 ・取り外した客席を運搬できる動線を確保する。 ・備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・小ホールと兼用とする。
ピアノ庫 (面積：適)	<ul style="list-style-type: none"> ・フルコンサートグランドピアノ2台、セミコンサートグランドピアノ1台を収納する。

項目	要求水準
宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 舞台へ搬出入しやすい計画とする。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 小ホールと兼用とする。
搬入ヤード・荷捌きスペース (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 tトラック 2 台が駐車でき、舞台への搬出入がしやすいスペースを確保する。 ・ 雨天でも支障なく荷下ろしできる構造とする。 ・ 小ホールと兼用とする。 ・ 小ホールと同時搬入可能な荷捌きスペースを確保する。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 舞台を支えるスタッフにとって使いやすい、効率的に設営できるホールをめざして、大道具、大型楽器等の舞台及び客席への段差のないスムーズな搬入経路、スペースを確保する。 ・ 搬入口と舞台が異なる階の計画も可とするが、その場合専用リフトを介した動線、および関係者のスムーズな動線を前提とする。
大道具倉庫 (約 100 m ²)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【別紙 3】舞台備品リストに記載のある備品の他、長尺もの、高所作業車、6 尺×18 尺程度のパネル 4 枚以上を収容する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 小ホールと兼用とする。
照明備品庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機材の交換用電灯(電球)類、照明部品等を収納する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 小ホールと兼用とする。
音響備品庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種工具、機材等を収納する。 ・ 移動型中型メインスピーカー(サブウーファー含)、インフィルスピーカー、移動型サイドモニタースピーカー、中型移動用ステージモニタースピーカー、小型移動用ステージモニタースピーカー、マイクおよびスタンド類など音響備品が収納できるスペースを確保する。また、頻繁な音響備品の移動にも配慮した計画とする。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 小ホールと兼用とする。

項目	要求水準
コンサート 用備品庫 (面積:適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・【別紙 3】舞台備品リストに記載のある備品を収納する。 ・通路と室内に段差を設けないこと。 ・備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・小ホールと兼用とする。
楽器庫 (面積:適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ以外の楽器類を格納する。 ・通路と室内に段差を設けないこと。 ・温湿度管理が行える設備を設ける。 ・備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・小ホールと兼用とする。

ク) 技術関係 (各室計画)

• 要求水準

項目	要求水準
技術関係 (各室計画)	
機構制御盤室 (面積: 適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 舞台エリアからのスムーズな動線を確保する。
調光器盤室 (面積: 適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。
アンプ室 (面積: 適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロセニアム近くに設置すること。 ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。
調光操作室 (面積: 適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台照明のメインの操作室とし、調光操作卓、負荷モニター、制御盤等を配置する。 ・ 仕込み時、本番時に、舞台や客席内の音をモニターできるような音響システムを設ける。 ・ 長時間にわたり操作するために適切な空調設備を設ける。 ・ 操作室から観客に遮られることなく舞台が見通せる位置に窓を設ける。 ・ 2~3名が常駐でき、操作に支障を及ぼさないレイアウトとする。 ・ 舞台正面に位置し、舞台全体が見渡せるものとする。
音響調整室 (面積: 適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台音響のメインの操作室とし、音響調整卓、音響モニター、制御盤等を配置する。 ・ 長時間にわたり操作するために適切な空調設備を設ける。 ・ 客席面に大きく開閉する開口部を設け、客席内の音声を確認できるようにする。 ・ 舞台正面に位置し、舞台全体が見渡せるものとする。 ・ 独立した小型スタジオモニターを設置する。
映像投影室 (面積: 適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 舞台客席側は、ガラス入り開閉可能な開口部とし、暗幕カーテンを設ける。 ・ 音声モニターを設置する。
フォロースポットライ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演者を照明作業者がフォロースポットで追尾するスペースとして計画する。

項目	要求水準
ト投光室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたり操作するために適切な空調設備を設ける。 ・室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・スタッフや機材が落下防止等、安全対策を講じる。 ・投光室までの動線は安全対策に配慮する。 ・音声モニターを設置する。
シーリングサイドライト投光室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台に対して、斜め前方高所よりスポットライトを照射するための投光スペースとして計画する。 ・スタッフや機材が落下防止等、安全対策を講じる。 ・投光室までの動線は安全対策に配慮する。
フロントサイドライト投光室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台に対して、斜め前方よりスポットライトを照射するための投光スペースとして計画する。 ・スタッフや機材が落下防止等、安全対策を講じる。 ・投光室までの動線は安全対策に配慮する。 ・機器が客席に影響ないように配慮する。

ケ) 楽屋関係 (各室計画)

・ 要求水準

項目	要求水準
楽屋関係 (各室計画)	
小楽屋 (約 20 m ² × 3 室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主役クラス、指揮者やソリスト等のためのシャワー室、トイレ、化粧台付の個室楽屋を 3 室設ける。 ・ 化粧鏡台は化粧に適した照度を確保する。
中楽屋 (約 50 m ² × 2~3 室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15~20 人程度が利用可能な楽屋を 2~3 部屋設ける。 ・ 利用人数に応じた化粧台、洗面台を設ける。 ・ 化粧台、洗面台は、それぞれにコンセントを設け、ヘアドライヤー等の同時利用に対応できるブレーカー容量を確保する。 ・ カーテンにより仕切りができ、スノコを置いて着替えができるスペースを確保する。 ・ 可動間仕切により必要に応じて、2 室として利用できる部屋も一部設けること。
大楽屋 (約 70 m ² × 2~3 室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30~40 人程度が利用可能な楽屋を 2~3 部屋設ける。 ・ 利用人数に応じた化粧台、洗面台を設ける。

項目	要求水準
	<ul style="list-style-type: none"> ・化粧台、洗面台は、それぞれに複数のコンセントを設け、ヘアドライヤー等の同時利用に対応できるブレーカー容量を確保する。 ・カーテンにより仕切りができ、スノコを置いて着替えができるスペースを確保する。 ・可動間仕切により必要に応じて、2室として利用できる部屋も一部設けること。
楽屋ロビー (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・出演者への来客対応やスタッフ打合せに活用できる空間とする。
主催者控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽屋口付近に計画する。 ・主催者の作業スペースとして利用する。
給湯室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽屋ロビーに面し、オープンキッチン的なドリンクサービス等の対応を考慮する。
楽屋トイレ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽屋収容人数に応じた数を、男女それぞれ設ける。 ・多目的トイレを設置する。
シャワー室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・脱衣室、シャワーブースを男女それぞれ設ける。
ランドリー室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機、乾燥機を2台ずつ設ける。
喫煙室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6人が利用可能な喫煙室を設ける。
舞台スタッフ(増員)控室(面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6人が利用可能な控室を設ける
楽屋備品庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除道具や楽屋備品等を収納する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・警備室にて入退館管理を行える楽屋口を1か所設ける。ただし、楽屋関係エリアは、大ホールと小ホールの楽屋関係者の動線が交錯しないようなゾーニング計画とする。 ・舞台上の汚れ物や掃除時の汚水を処理できる設備を舞台袖及び楽屋周りに設ける。

	項目	要求水準
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下駐車場から楽屋関係エリアの小楽屋付近にアクセス可能な専用エレベーターを設ける。 ・ 楽屋関係エリア内の適所に、コインロッカーを設置する。ロッカーは様々なサイズを揃えた計画とする。 ・ 楽屋から舞台へ段差がなくスムーズに移動できる動線を確保し、演者が移動する際に分かりやすい工夫を行う。 ・ 楽屋と舞台が異なる階の計画も可とするが、その場合エレベーターで動線の確保を前提とする。

(4) 小ホール

ア) 基本方針

- 音楽（生音系）、演劇、ダンスなどの舞台芸術から集会などの催事まで上演に適した多目的ホールとする。

音楽								演劇	ダンス	伝統芸能				講演	映像		
生音系				電気音響系													
オーケストラ・吹奏楽	室内楽	ピアノ	合唱・声楽	オペラ	ポップス・ロック	ジャズ	演歌	演劇	ミュージカル	バレエ	ダンス	歌舞伎・能・狂言	邦楽・民謡	邦舞	落語	講演会・式典	映画・ビデオ
○	◎	◎	◎	※1	○	○	○	◎	※1	※1	◎	×	◎	◎	◎	◎	○

◎：上演に適した用途

○：上演が可能な用途

※1：小規模であれば対応可能

- 上記表のとおり多岐にわたる演目に対応できる音響・照明・舞台機構設備を備える。
- 最新のシステム、機材を積極的に取り入れる他、改修等も見据えた計画とする。
- 催事の形態に合わせて、最小限の人数でも操作が行える設備とする。
- 技術員や管理員を効率的に配置できる操作確認システムを構成する。
- 舞台、客席に限らず音響・照明機材の設置場所等には、作業に支障がないように十分なスペースと照度を確保し、安全に作業が行える環境を整える。
- 各室で施錠できるものとする。また、事務室等で各諸室の一斉施錠などを行える入退室システムを構築する。

イ) 空間計画

- 要求水準

項目	要求水準
空間計画	
客席計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1層構造の客席数 300 席以上とする。 ・ 客席は収納式机付椅子の階段床固定席とする。 ・ 全ての客席から舞台が十分に見渡せるものとする。 ・ 舞台に正対する客席は千鳥配置とする。

項目	要求水準
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席間隔は前後間隔 950mm 以上、幅 530mm 以上のゆとりのある座席とする。 ・ 各列の横並びは、観客の出入りしやすさや迅速な避難等を考慮し、適切な席数とする。 ・ 通路や階段は、歩きやすさに配慮するとともに、避難時のスムーズな移動に十分留意した計画とする。 ・ 席番銘板は、座と背の 2 か所に設け、通路側床に列番号銘板を取り付ける。 ・ 車椅子席は大阪府福祉のまちづくり条例で規定する席数以上を確保し、位置は 1 か所に限定せず配置する。 ・ 車椅子席は、必要に応じて取り外し可能な座席を設置できるものとする。 ・ PA 席は、客席内の最適な場所に必要に応じて座席を取り外して設置できるものとする。 ・ 客席内の PA 席から舞台まで、持込機材等の配線作業が容易にでき、配線が露出しない形状の配線スペースを確保する。 ・ 客席内に配線されるケーブルが安全かつ、見苦しくならないような策を講じること。 ・ 長時間の着席にも疲れにくく座り心地のよい上質な座席仕様とする。
舞台計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主舞台間口は 6 間以上、奥行は 4 間以上とする。 ・ 舞台への出入口は上手下手それぞれに設ける。 ・ 舞台裏で上手と下手への動線を確保する。 ・ 舞台への出入り口はフルコンサートピアノの移動に支障がない計画とする。
音響計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽（生音系）、演劇などの舞台利用（講演会、式典等含む）それぞれに適した残響時間とする。また、可能な限り音楽（電気音楽系）利用時にも対応できる計画とする。 ・ 残響時間は、満席時 1.3 秒とする（残響可変装置などの設置は想定していない）。 ・ 静けさの基準（室内騒音低減目標値）として、客席内において平均 NC-20 を目標とする。 ・ 反射面・吸音面を適切に向け、全ての席で直接音や初期反射音が多く得られ、明瞭度が高く、質の高い音を確保する。 ・ 客席の壁や天井に設備した幕類など簡易なもので吸音し、残響や音響を調整できるようにする。なお、壁面や天井の可変（昇降）等による残響可

項目	要求水準
	<p>変機構等の設置は想定していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遮音性能や耐振動性能に十分配慮し、他の施設との同時稼働に影響のないものにする。

ウ) 舞台機構

・要求水準

項目	要求水準
舞台機構	
舞台形式	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台と客席を分ける額縁（フレーム）のない形式（シューボックス形式、エンドステージ形式）とする。 ・演劇などの舞台利用（講演会、式典等含む）にも、諸幕類により対応できること。 ・袖的に使えるスペースを確保できるよう考慮すること。
吊物機構設備	<ul style="list-style-type: none"> ・主舞台の大きさ間口6間以上、奥行4間以上に適したバトン本数を設置する（道具バトン類：5本、照明バトン4本、諸幕用バトン類：10本以上）。 ・道具バトン類、照明バトン、諸幕用バトン類で構成し、主に舞台上部と客席前方上部に設置する。 ・吊物配置計画は、演出の自由度を最大限向上させる計画とし、道具バトン、諸幕用バトン類は必要に応じて吊変えができるものとする。 ・道具バトン、諸幕用バトン類は一定速とし、最大積載荷重を100kg程度（バトンの自重を含まない）とする。 ・照明バトンは一定速とし、最大積載荷重を500kg程度（バトンの自重を含まない）とする。 ・バトン類に関しては、メモリ機能（2か所以上）を設ける。
音響反射板	<ul style="list-style-type: none"> ・固定式の正面音響反射板のみを設置する（側面や天井音響反射板の設置は想定していない）。
機械・操作・制御部	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策として非常停止機能を有したものとする。
諸幕類	<ul style="list-style-type: none"> ・主舞台の大きさ間口6間以上、奥行4間以上に適した諸幕類を設置する（一文字幕（4本）、袖幕（3本）、引割幕、スクリーン、大黒幕、ホリゾント幕以上）。 ・音楽（生音系）利用時に、幕類を壁面に収納する

項目	要求水準
	など工夫した提案とする。

エ) 舞台照明

• 要求水準

項目	要求水準
舞台照明	
照明システム	<ul style="list-style-type: none"> ・一般照明、デジタル照明に対応可能なものとする。 ・各催事の持込機材に対応できるように、回路の増設が可能な電源・移動型調光器等を確保したシステムとする。
調光設備	<ul style="list-style-type: none"> ・最小限の人数でも催事に対応できるように、メイン調光操作卓以外にも舞台脇などで、ある程度の操作ができるサブ調光卓を設置する。 ・持込機材の対応を想定し、持込卓用コネクタを設置する。また、PA席にもコネクタを設ける。 ・制御信号としてDMX回線に加えて、LAN回線も設置する。
負荷設備	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台フロアコンセント、舞台サスペンションライト、 Horizont ライト、フロントサイドライト、シーリングライト、フォロースポットライト等で構成する。 ・舞台フロアコンセントは、想定する催事に対して適切な位置と数を設置する。 ・舞台上のサスペンションライトは2列以上設置する。 ・フォロースポットは2台設置する。
移動器具	<ul style="list-style-type: none"> ・スポットライト等の照明器具は、基本的な器具を本工事としその他は備品とする。
電源部	<ul style="list-style-type: none"> ・調光主幹盤、分電盤、調光器盤で構成する。 ・想定する催事の規模に相応した電源容量、調光回路数を確保する。 ・調光回路以外にも、ムービングライトやLED機材に対応するための直電源(100V、200V)を設ける。

オ) 舞台音響

・ 要求水準

項目	要求水準
舞台音響	
音響システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音響システムは基本的な拡声ができる構成とし、複雑な演出に関しては持込対応とする。 ・ 生の音の響きやPAを使用した催しに対応できる音響設計とする。 ・ 光システム等を含む、ネットワークオーディオによるフルデジタル舞台音響システムとする。 ・ メイン音響卓は YAMAHA QL5 と同等性能を有した機器を設置する。 ・ メイン音響卓以外にデジタルネットワークに入り込める大小ホール共用の移動用デジタル卓を導入し可搬性にも配慮する。 ・ 任意の客席位置もしくはステージ上からもPA卓を遠隔操作できるようなシステムとする。 ・ 客席内でPA席が想定される場所には、観客の足下を邪魔しない位置に音響電源と音響コネクタ盤を設ける。
拡声設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昇降可能な中型吊スピーカー、移動型中型メインスピーカー（サブウーファー含）、インフィルスピーカー、移動型サイドモニタースピーカー、中型移動用ステージモニタースピーカー、小型移動用ステージモニタースピーカーなどを配置する。
舞台映像設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5,000～7,000ルーメン程度のプロジェクターと周辺機器一式及び電源を設置する。
舞台連絡設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターカムシステムを導入する。
ITV 設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアモニターマイク、ITV カメラを用い、舞台、ホワイエ等、必要エリアの状況を把握する。 ・ 舞台進行が分かるように調整室、楽屋、楽屋ロビー、ホワイエ等適切な位置にITVモニターやコンセントを設ける。 ・ 舞台上と楽屋等の双方向から関係者に向けて、一斉アナウンスできる機能を設ける。 ・ 一般設備で設ける施設運営用ITVと役割分担し、舞台用ITVは必要十分な数を設ける。 ・ ITV設備は、暗視・録画機能があるものとする。
録画・録音設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席正面から舞台映像を録画し、メディア作成できる機能があるものとする。 ・ 舞台上の音声を録音できるよう、適切な場所に三点吊りマイク、エアモニターマイク、吊りオー

項目	要求水準
	ディエンスを設ける。

カ) 客席関係 (各室計画)

• 要求水準

項目	要求水準
客席関係 (各室計画)	
ホワイエ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席数に見合った広さを確保する。 ・ ホワイエ内に仮設のクロークを設置できる計画とする。 ・ ホワイエ内の適所に、客用のコインロッカーを設置する。ロッカーは様々なサイズを揃えた計画とする。
客用トイレ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席数に見合った規模を確保する。 ・ 多目的トイレを整備する。 ・ トイレの数はゆとりを持たせ、休憩時間の混雑を可能な限り緩和できる計画とする(男女の利用状況により、男子トイレを女子トイレに変更できるような工夫を検討すること)。 ・ 女子トイレはウォークスルー方式を採用するなど、混雑解消に配慮する。 ・ 女子トイレの洗面台とパウダースペースは隣接配置するなど、スムーズな移動に留意すること。 ・ ブース扉の開閉等により、空ブースを利用者に対して分かりやすく表示する。
主催者控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスロビーに面した位置に計画する。 ・ 主催者の作業スペースとして利用する。 ・ 必要に応じて4人用応接セットを設置し、来賓控室など多様な利用を可能とする。
備品倉庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイエ内で使用する備品を収納する。 ・ ホワイエに面した位置とし、室内との間に段差を設けないこと。
スタッフ控室 (約 10 m ²)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場内運営スタッフなどの控室として計画し、作業や休憩としての利用を想定する。

キ) 舞台関係 (各室計画)

• 要求水準

項目	要求水準
舞台関係 (各室計画)	
舞台備品庫 (約 130 m ²)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台周りの消耗品、工具類、小物類等や取り外した客席を収納する。 ・ 取り外した客席を運搬できる動線を確保する。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。
ピアノ庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ フルコンサートグランドピアノ 2 台、セミコンサートグランドピアノ 1 台を収納する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 舞台へ搬出入しやすい計画とする。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。
搬入ヤード・荷捌きスペース (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 tトラック 2 台が駐車でき、舞台への搬出入がしやすいスペースを確保する。 ・ 雨天でも支障なく荷下ろしできる構造とする。 ・ 大ホールと兼用とする。 ・ 大ホールと同時搬入可能な荷捌きスペースを確保する。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 舞台を支えるスタッフにとって使いやすい、効率的に設営できるホールをめざして、大道具、大型楽器等の舞台及び客席への段差のないスムーズな搬入経路、スペースを確保する。 ・ 搬入口と舞台が異なる階の計画も可とするが、その場合専用リフトを介した動線、および関係者のスムーズな動線を前提とする。
大道具倉庫 (約 100 m ²)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【別紙 3】舞台備品リストに記載のある備品の他、長尺もの、高所作業車、6 尺×18 尺程度のパネル 4 枚以上を収容する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。
照明備品庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機材の交換用電灯(電球)類、照明部品等を収納する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。
音響備品庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種工具、機材等を収納する。 ・ 移動型中型メインスピーカー (サブウーファー

項目	要求水準
	<p>含)、インフィルスピーカー、移動型サイドモニタースピーカー、中型移動用ステージモニタースピーカー、小型移動用ステージモニタースピーカー、マイクおよびスタンド類など音響備品が収納できるスペースを確保する。また、頻繁な移動にも配慮した計画とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。
コンサート用備品庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【別紙3】舞台備品リストに記載のある備品を収納する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。
楽器庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノ以外の楽器類を格納する。 ・ 通路と室内に段差を設けないこと。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 備品保管時の転倒防止など安全対策を講じる。 ・ 大ホールと兼用とする。

ク) 技術関係 (各室計画)

• 要求水準

項目	要求水準
技術関係 (各室計画)	
機構制御盤室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。 ・ 舞台エリアからのスムーズな動線を確保する。
調光器盤室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 温湿度管理が行える設備を設ける。
調光操作室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台照明のメインの操作室とし、調光操作卓、負荷モニター、制御盤等を配置する。 ・ 仕込み時、本番時に、舞台や客席内の音をモニターできるような音響システムを設ける。 ・ 長時間にわたり操作するために適切な空調設備を設ける。 ・ 操作室から観客に遮られることなく舞台が見通せる位置に窓を設ける。

項目	要求水準
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3 名が常駐でき、操作に支障を及ぼさないレイアウトとする。 ・ 舞台正面に位置し、舞台全体が見渡せるものとする。 ・ 独立した小型スタジオモニターを設置する。
音響調整室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台音響のメインの操作室とし、音響調整卓、音響モニター、制御盤等を配置する。 ・ 長時間にわたり操作するために適切な空調設備を設ける。 ・ 客席面に大きく開閉する開口部を設け、客席内の音声を確認できるようにする。 ・ 舞台正面に位置し、舞台全体が見渡せるものとする。 ・ 独立した小型スタジオモニターを設置する。
映像投影室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ 舞台客席側は、ガラス入り開閉可能な開口部とし、暗幕カーテンを設ける。 ・ 音声モニターを設置する。 ・ 独立した小型スタジオモニターを設置する。
フォロースポットライト投光室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演者を照明作業者がフォロースポットで追尾するスペースとして計画する。 ・ 長時間にわたり操作するために適切な空調設備を設ける。 ・ 室内の音がホール空間に影響を及ぼさないように遮音する。 ・ スタッフや機材の落下防止等、安全対策を講じる。 ・ 投光室までの動線は安全対策に配慮する。
シーリングサイドライト投光室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台に対して、斜め前方高所よりスポットライトを照射するための投光スペースとして計画する。 ・ スタッフや機材の落下防止等、安全対策を講じる。 ・ 投光室までの動線は安全対策に配慮する。
フロントサイドライト投光室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台に対して、斜め前方よりスポットライトを照射するための投光スペースとして計画する。 ・ スタッフや機材の落下防止等、安全対策を講じる。 ・ 投光室までの動線は安全対策に配慮する。 ・ 機器が客席に影響ないように配慮する。

ケ) 楽屋関係 (各室計画)

• 要求水準

項目	要求水準
楽屋関係 (各室計画)	
小楽屋 (約 20 m ² × 2 室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6～8 人程度が利用可能な楽屋を 2 部屋設ける。 ・ 化粧鏡台は化粧に適した照度を確保する。
中楽屋 (約 50 m ² × 1～2 室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15～20 人程度が利用可能な楽屋を 1～2 部屋設ける。 ・ 利用人数に応じた化粧台、洗面台を設ける。 ・ 化粧台、洗面台は、それぞれに複数のコンセントを設け、ヘアドライヤー等の同時利用に対応できるブレーカー容量を確保する。 ・ カーテンにより仕切りができ、スノコを置いて着替えができるスペースを確保する。 ・ 化粧鏡台は化粧に適した照度を確保する。 ・ 可動間仕切により必要に応じて、2 室として利用できる部屋も一部設けること。
楽屋トイレ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽屋収容人数に応じたトイレ数を、男女それぞれ設けること。 ・ 多目的トイレを設置すること。
舞台スタッフ (増員) 控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5～6 人が利用可能な控室を設ける。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警備室にて入館管理を行える楽屋口を 1 か所設ける。ただし、楽屋関係エリアは、大ホールと小ホールの楽屋関係者の動線が交差しないようなゾーニング計画とする。 ・ 楽屋関係エリア内の適所に、コインロッカーを設置する。ロッカーは様々なサイズを揃えた計画とする。 ・ 楽屋から舞台へ段差のなくスムーズに移動できる動線を確保し、演者が移動する際に分かりやすい工夫を行う。 ・ 楽屋と舞台が異なる階の計画も可とするが、その場合エレベーターで動線の確保を前提とする。

(5) その他諸室

ア) リハーサルスタジオ

- 使用用途
 - 大ホール利用者向けの演奏・ダンスリハーサル及び公演時の控室として利用する。
 - ダンス、演奏、合唱等のリハーサル室として貸出利用する。
- 要求水準

項目	要求水準
リハーサルスタジオ	
空間計画	<ul style="list-style-type: none"> ・大ホール舞台と同等な広さを可能な限り確保すること。 ・固定レッスンバー、固定壁面鏡(一面)を設ける。 ・二重扉とし、床・壁共に防音・防振動対策を行う。 ・事務室等で各諸室の一斉施錠などを行える入退室システムを構築する。
備品倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・【別紙3】舞台備品リストに記載のある備品を収納する。
更衣室	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の更衣スペース及び荷物の保管ができるコインロッカーを設置する。
動線計画	<ul style="list-style-type: none"> ・大ホールのバックステージ側から主催者や演者が利用しやすい計画とし、単独での貸出利用も踏まえた動線も確保する。

イ) その他諸室

- 要求水準

項目	要求水準
エントランスロビー (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地の良い、落ち着いた空間とし、事務室の受付カウンターからも見えやすい位置に、テーブルや椅子を配置する。 ・目的がなくても訪れ、日常的なくつろぎの空間とするとともに、様々な交流が生まれる空間とする。 ・エントランスロビーは吹抜空間とし、広報ポスターなどを掲示するための設備を適宜設ける。 ・風除室を設ける。 ・大ホールや小ホールなどにつながるスペースとして配置し、各諸室へと至る動線の中心となる空間とする。 ・大勢の観客が一時的に集中する公演時などにも配慮する。 ・自然光を積極的に取り入れるなど工夫を行い、魅力を感じる空間となるよう配慮する。

項目	要求水準
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天候やイベントに合わせて室内照度を調整できる調光設備を設ける。 ・ 大、小ホールで開催される各種公演や、催事・企画等の内容を告知するサインを設置する。これらはデジタルサイネージとして豊富な情報量を生かし利便性を高めること。また、外部からの動線に面する場所に設置する。
サブエントランス (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤レベルに、デッキ下からアクセスできるサブエントランスを設ける。 ・ 風除室を設ける。 ・ サブエントランスは、エントランスロビーにのみアクセスできるものとする。
客用トイレ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開場前に利用できるトイレをエントランスロビー付近に設ける。
授乳室、おむつコーナー (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児の授乳、おむつ替えのスペースを計画する。 ・ 男性も利用しやすいように配慮する。
自動販売機コーナー (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスロビーに面して自動販売機コーナーを設ける。ただし、周辺の雰囲気乱さない配置及びデザインとなるよう十分配慮する。
コピーコーナー (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来館者が利用できるコピーコーナーを設ける。ただし、周辺の雰囲気乱さない配置及びデザインとなるよう十分配慮する。
事務室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10～15名のスタッフが施設管理を行うために必要な設備を備えた計画とする。 ・ 受付カウンター側とバック動線側の2か所の出入口を設ける。
清掃員控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃員の控室として計画する。
更衣室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が利用できる男女別の計画とする。
倉庫 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種資料保管庫として利用できるよう収納棚を設置する。
職員用トイレ (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女別に3名が利用できるよう計画する。
警備員控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～5名のスタッフが常駐でき、各種警備機材が設置できる計画とする。
舞台スタッフ(常駐)控室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務室近くに6名程度のスタッフが利用する計画とする。
救護室 (面積：適宜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務室内に設置し、簡易ベッド、応接セットを設置できる計画とする。

項目	要求水準
会議室 (面積：適宜)	・ 10～15 名で打合せ・会議ができる計画とする。
舞台打合室 (面積：適宜)	・ 10～15 名で打合せ・会議ができる計画とする。

(6) 設備関連

ア) 基本方針

- ・全体として、各室の同時稼働時の静けさを十分に実現する。
- ・ホールには別途 NC 値の設定があるのでそれに従う。
- ・舞台各設備との整合に配慮し、特に、音響電源のグラウンドに細心の注意を払い（1次側 T-N 接地）各設備のインバーター制御による高周波ノイズが音響設備に影響しないように計画する。
- ・設備機器が発する騒音・振動の制御及び機器・配線からの電氣的な発振の影響が音響設備に出現しないよう配置位置や配線ルートに配慮した計画とする。

イ) 要求水準

項目	要求水準
電気設備	
照明器具	・トイレなど人感センサー等を適切に使用し、省エネルギーに配慮する。
誘導灯	・大、小ホールは信号装置による誘導灯及び足下灯の消灯が行えるようにする。
構内情報通信網設備	・インターネット回線を引き込み、必要な機器及び LAN 配線・配管を整備する。 ・施設利用者にインターネット環境を開放するため、各所に無線 LAN アクセスポイントを設ける。 ・事務管理エリアからもインターネットが利用できる環境とする。
携帯電話設備	・全キャリア、全機種が施設内で十分受信可能な状況となるよう、アンテナの設置等を適宜行う。 ・大、小ホール内では客席にて公演中に携帯電話が使用できないように携帯電話等機能抑止装置を設置し、携帯電話の着信音が鑑賞の妨げにならないように配慮する。 ・携帯電話等機能抑止装置がワイヤレスマイクの運用に影響した場合を考え、携帯電話等機能抑止装置の入切スイッチは舞台操作盤近くに配置する。
空調換気設備	
空調設備	・舞台やリハーサル等での仕込み・撤去と本番上演、負荷の大きな変動、時間外使用等の特殊な使い方にも効率よく対応できる計画とする。 ・舞台上はコールドドラフトの防止をはじめ、幕揺れの防止等の良好な環境を確保し、舞台上演や演奏及びそれらの演出等客席での鑑賞に支障のない計画とする。 ・客席、舞台、楽屋、リハーサルスタジオにおいて

項目	要求水準
	<p>は、特に運用時の静けさを確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽屋等は個別温度調整ができる空調システムとする。 ・ 舞台脇で客席部分と舞台を個別に温湿度管理ができるようにする。